

第三者意見

NPO法人サステナビリティ創造研究学会 理事長
(法政大学 大学院環境マネジメント研究科 教授)



向井 常雄

ユーコープ事業連合のCSR報告書2011は、統合マネジメント方針に定める基本理念「人—社会—自然の調和ある平和な社会の実現」に向けて確実な前進を伺い知ることができ、前年度の報告書より読みやすく、第三者にとって理解しやすい内容になっています。

また、基本方針とする「安全・安心、正直、誠実、公開、他人への配慮、安全衛生リスクの低減、汚染の予防」が具体的に意図されており、利害関係者に対して適切なCSR報告書であることを第3者として検証いたしました。

下記に、「主な評価できる事項(良い点) および改善事項(今後改善が期待される点)」および「総合コメント」を示しましたので、今後の活動にご参考ください。

■主な評価できる事項(良い点)

- 1) 巻頭の「トップメッセージ」では、グローバルな視野で国際協同組合の一組織として事業を展開して行くこと、前年度のケアレス不適合問題からコンプライアンス意識を持続的に見直して行くこと、そして、東日本大震災復興支援をきっかけに「つながり・絆・助け合い」を広く利害関係者と共通価値観を持って、地域社会づくりに役割を果たして行くことを宣言されています。これは、事業連合組織内外の利害関係者に「ユーコープ事業連合のビジョン」を分かりやすく、明快に示したトップ声明として高く評価できます。
- 2) 「みるくばきん」、「フェアトレードバナナ」、「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」などは、組合員や店舗顧客が「コープ商品購買を通じて国際社会への貢献に直接的インセンティブな役割を果たしている」ことがよくわかるユーコープ事業連合のCSR事項です。
- 3) 東日本大震災復興支援への取り組みは、ユーコープ事業連合の組織力・身の丈に合った・コープだからできる具体的実施支援であり、「がんばれ日本!」ではなく、「一緒に頑張るぞ!」の意図が表われた報告となっており、今後も可能な限りの継続が望まれます。
- 4) 過去の「ケアレス不適合問題」を取上げて取り上げて、「食の安心」、「家計の安心」、「くらしの安心」をコアとした品質管理、危機管理を、昨年設立した「組合員改善委員会」で見直し、改善・改革した結果として、「全体の取り組み」、「店舗での取り組み」および「おうちCO-OPでの取り組み」に区分し、CSRとして具体的な改善取り組み対策となっていることがよく理解できます。
- 5) 「食育、子育ての活動」および「福祉・助け合い活動(地域を知る活動、キッズのための認知症がよくわかる講座、外国コインでユニセフ募金)」などは、組合員や店舗顧客が日常あまり広く認識していないコープ活動だと思います。こうした情報発信は、トップ声明を具体的に展開させ、実現させるものにつながるものになりましょう。

■主な改善事項(今後改善が期待される点)

- 1) 事業連合組織内外の利害関係者と協力して「トップメッセージ・声明」を確実に展開させ、達成させて行くための活動内容や利害関係者からの意見・コメントの受付から検討のプロセスを紹介する情報があると、利害関係者と共通価値観の視点から円滑な展開・達成につながりうるものが期待されます。
- 2) 「トップメッセージ・声明」の中で、ユーコープ事業連合の組織力に合った「CSRの定義およびビジョンに沿ったCSR目標」を明確に公表しておくことと利害関係者の理解と協力が得やすくなるものと考えます。
- 3) ユーコープの事業連合の地域(神奈川、静岡、山梨)ごとの特徴・特性に合わせたCSR活動目標が示されていると、各地域の特性に合った利害関係者(組合員、店舗顧客など)の協力が得られることが期待されます。
- 4) 前回もコメントしましたが、環境データに関して、フードマイレージ*1、カーボンフットプリント、ウォーターフットプリント、ウェイストフットプリント*2などの考え方を含めた分析評価を徐々に取り入れて行くと、利害関係者にはより一層の地球環境保全への貢献性を理解してもらえるものと考えます。

■総合コメント

前記のごとく、主な良い点および望ましい改善点にかかわるコメントを含め「2011年度ユーコープ事業連合CSR報告書」の適切性を検証しましたが、今後のユーコープ事業連合サステナブル*3 経営のために、次のようなCSRの取り組みをリコメンドいたします。

来年度は、トップメッセージ・声明にも述べられているように、国連の定める「2012国際協同組合年」にあたりますので、これに合わせた具体的取り組みを利害関係者と協働で推進していくことがグローバルコープの一員として望まれます。

また、1992年リオデジャネイロ地球環境サミットで決議された「気候変動枠組条約」に基づく国際的な省エネ・CO₂削減については、当組織も確実に対応を図り、報告されていますが、同サミットで同時に決議された「生物の多様性に関する条約」に関する取り組みにもコープCSR活動として何が社会貢献できるかも配慮する時期に来ていると考えます。

これらは2012年度CSR報告書に反映されることを期待いたします。

*1 フードマイレージ…食料産地から消費地までの輸送距離

*2 カーボンフットプリント、ウォーターフットプリント、ウェイストフットプリント…製品のライフサイクル中に排出使用される物質(CO₂、水、廃棄物)の総量を表示するしくみ

*3 サステナブル…持続可能な